

交通安全

「交通安全」取り組みの基本的な考え方

「交通安全」の領域では、「交通事故死傷者ゼロ」の実現に貢献するため、「人・クルマ・交通環境」の三位一体による交通安全の取り組みを進めています。なかでも、ドライバー、歩行者などの「人」に対する交通安全意識向上に向けた啓発活動は、1960年代から推進し、幅広い層に向けたさまざまな活動を継続して実施。昨今では海外事業体でも展開しています。

【事例紹介】

「幼児向け交通安全教材の贈呈」 全国トヨタ販売店などと共同で、毎年春に展開

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)、全国トヨタ販売会社など

【概要】

国の春の「全国交通安全運動」に合わせ、全国の販売店などと協力して「幼児向け交通安全教材の贈呈」を1969年より実施しています。歩行中の交通事故死傷者数がもっとも多いのは7歳であることから、7歳を迎える子どもたちへの交通安全教材として、絵本・紙芝居を全国の幼稚園・保育所の新入園児向けに贈呈しています。

幼児の交通事故に多い「急な飛び出しの危険」や「道路の正しい渡り方」を分かりやすく説明しています。



2018年度「幼児向け交通安全絵本・紙芝居」

【これまでの実績】

2017年度絵本発行部数：約262万部 累計：約1億4,141万部
2017年度紙芝居発行部数：約4.6万部 累計：約161万部



キャラクターのひよこの「クック」と園児たち（トヨタ部品大阪共販）

体験型交通安全イベント「ピッカリ反射幕」「オリジナル反射材」

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

地域に根ざした交通安全活動として、全国各地の自治体や企業、販売店などと連携して「体験型交通安全イベント」を開催しています。イベントでは、実体験をともなうプログラムとして、「反射材の効果」や「色による夜間の視認性の違い」を手軽に体験し理解できる「ピッカリ反射幕」「オリジナル反射材（キーホルダー）」作りを実施し、幅広い年齢層の方に体験いただくことで、一般市民の安全意識向上につなげています。

【これまでの実績】

2017年度プログラム体験者数：1,920人
累計プログラム体験者数：約5万8,800人



ピッカリ反射幕の体験

「トヨタセーフティスクール」 地域に定着した幼児交通安全教室

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

愛知県豊田市および静岡県のとヨタ施設周辺の年長園児を、トヨタ会館と「トヨタ交通安全センター モビリティ」に招いて、毎年開催している幼児向け交通安全教室です。トヨタ会館では、交通安全劇やクイズなどにより、楽しみながら交通ルールが学べます。「モビリティ」では、専用施設である特徴を生かし、実車を走らせ実際の交通環境を再現した中で「横断歩道の渡り方」や「飛び出しの危険性」を親子で学びます。こうしたプログラムは、園児自らが身近な危険について考え、“気づく能力”を育む内容となっており、地域では恒例の交通安全啓発活動として定着しています。

【これまでの実績】

累計参加園数：3,774園 累計参加者数：26万3,656人
(2018年3月時点)



あんぜんマンによる指導 (トヨタ会館)



横断歩道の渡り方 (モビリティ)

「トヨタ ドライバーコミュニケーション」 in モビリティ 安全意識向上を目指した安全運転講習会

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

トヨタ独自の安全運転プログラムで、一般および企業のドライバー向けに開催しています。このプログラムは、実技形式で、正しい運転操作や車両の挙動、安全装備の正しい使い方などを学んでいただくためのものです。また、周囲の安全にも気を配るなど、安全意識の向上を目指しています。

1987年に若年ドライバーの事故を低減する目的で始まり、その後、対象年齢や会場を拡大し、2005年に「トヨタ交通安全センターモビリティ」(富士スピードウェイ内)を開設し、「交通事故死傷者ゼロ」に向け、日々活動しています。

【これまでの実績】

累計受講者数：約12万人 (2018年3月時点)



トヨタ交通安全センター モビリティ



“キケン”を安全に体験するモビリティのプログラム

Web <https://www.toyota.co.jp/mobilitas/>

「トヨタ ドライバーコミュニケーション」 in MEGA WEB

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

お台場にある車のテーマパーク「MEGA WEB」では「トヨタドライバーコミュニケーション」を気軽に体験できる1時間プログラムを開催しています。参加者は初心者からベテランドライバーまで幅広く、インストラクターがマンツーマンで一人ひとりに合った安全運転のアドバイスをしています。ベーシックな講習に加え、2018年より「自動ブレーキ (PCS)」の同乗体験や、「踏み間違い時サポートブレーキ (ICS)」を実体験できるプログラムを開始。お客様自身の運転で「ICS」を体験できる唯一の施設となっており、安全性能の高さを体感いただくと同時に、安全技術を過信せず、ご自身の安全運転の重要性についても実感いただけます。



インストラクターとの同乗体験



Web <https://www.megaweb.gr.jp/>

神経シゲキ体操 運動神経をシゲキして、スムーズな身のこなしによる事故予防

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

神経シゲキ体操*は、日頃刺激していない体幹の運動神経を目覚めさせる体操です。子どもからご年配の方まで、激しいトレーニングをしなくても、全身の神経に必要なシゲキを与えることで身体をイメージどおりスムーズに動かすことができるようになります。また、神経をシゲキし、身のこなしがスムーズになれば、運転時のブレーキ・アクセルの踏み間違い、ハンドルの誤操作や判断の誤りなどの交通事故や、歩行時の転倒事故なども回避できる可能性が高くなります。

* 神経シゲキ体操：徳島大学名誉教授の荒木秀夫先生が開発した体操で、正式名称は「コーディネーション (Co-ordination) トレーニング」。荒木先生は、人間が持つ能力を巧みに組み合わせることでさらなる可能性を引き出す「コーディネーション トレーニング」理論を確立し、全国の自治体や東京都の公立学校、さらにはトップアスリートなどにも指導に当たっています。

【これまでの実績】

2018年9月：Webサイトに動画公開

トヨタフレンドリーフェスタ (愛知県) にてイベント開催 (参加者約200人)



神経シゲキ体操のポスター

「トヨタ安全運転プログラム」 より安全な交通社会を築くインストラクター養成プログラム

ベトナム | 主体：ベトナムトヨタ (TMV)

【概要】

ベトナムでは、年間約2万3,000件の交通事故が発生。8,671人が命を落とす厳しい状況となっています。そこで、ベトナムトヨタ (TMV) と地元警察は共同で、運転技術と交通安全マインドを広める「安全運転インストラクター」を養成。1年半の訓練を終えたインストラクターであるTMV従業員は、2017年よりお客様を対象とした安全運転教室などを開催しています。

【これまでの実績】

2016年3月：8人をインストラクターとして認定。

2017年11月：安全運転教室開催 (参加者135人)



2016年3月11日 「トヨタ安全運転インストラクター養成プログラム」卒業式典



TMVのインストラクター研修